

宇部市制施行100周年記念

みんもの 宇部 ものがたり



絵：水野ぷりん



この世界は＜不思議＞であふれています。耳をすますと、ほら、聞こえてきますよ。

うべのまちにまんげつひかりふそそよる、
ちようこくうごだふたりであ
彫刻たちが動き出し、二人が出会います。

こんばんは。わしのことを知っておるかな？

もちろん！

おじいさんは、みんなのために
いろんなものをつくってきたんだよね。

わたしは、みんなにうべのことを、
もっと知ってほしいとずっとおもっていたの。
おじいさん、いまいっしょにうべの歴史を
見ていきましょうよ！

原始・古代の暮らし

宇部では、約 8000 年前（縄文時代）から、食料がとれる海辺や平地で生活していたの。

集落のはずれに、貝殻がたくさん積んであるのう。



これは、約 2000 年前（弥生時代）、
食べた貝などを捨てた跡で「貝塚」と呼ばれているわ。

「宇部」を発見（1300～1400年ごろ）

なんと美しいお庭じゃな。
池に小石がたくさんあるのう。

これは、龍心庭（宗隣寺庭園）の干潟様といって、
池の水位で潮の満ち引きを表しているの。
山口県で一番古い庭園よ。

おや、あの古文書の中に「宇部」という文字が見えるぞ。

石なみに
海〜♪
コジシ

書の具置佛は三長地久御柳
圓満聖事安達也者有来代也
建武二年八月十五日
利紙

宇部

世寺
地事

厚東武実
こうとうたけざね



人の世の移りかわりも
潮の満ち引きも
似ているのう。

宇部を治めていた厚東氏が書いた文書で、
「宇部」という文字が出てくる一番古いもののなのよ。

市街地の様子（1600 年ごろ）

見て！ 沖の方に細長い砂の丘がのびているでしょ。
これが山のように見えたから、このあたりを「沖の山」と呼んでいたのよ。

へえ！ 今ではまったく想像できんのう！

江戸時代初期の地形



宇部領主の福原氏は、この入り江を開作（干拓）していくんだけど、
なぜだと思う？

地形の移り変わり (1690 ~ 1800 年ごろ)

わかったぞ、田んぼにするんじゃな。

そうよ。

常盤池 (今の常盤湖) も、

近くの田に水を引くために造られたため池なのよ。

この大工事は何をしているんじゃ？

真締川の氾濫を防ぐために、

川をまっすぐに

しているところなの。

おじいさん
かばんばれー！

土も
固めるぞー！

わしも
はきるぞ！



なるほど。真締川の下流は新しく作られたから、このあたりを「新川」と呼ぶんじゃな。

ねえ、おじいさん、船木の街道沿いに人がたくさんいるよ。行ってみない？

船木宿 (1700 年ごろ)

船木宿は、山陽道の宿場町として、「勘場」という役所や宿屋、商店などが並んで、多くの人々が行き交う、にぎやかな街でした。



おっ、ちょうど参勤交代のお殿様の行列が通っておるな。
あそこに馬が集まっているぞ。

次の宿場町まで荷物を運ぶのよ。

船木の石炭（イシズミ）と櫛は、長門国の特産品だったの。

だから船木が「石炭発祥の地」といわれるわけじゃな。

同じころ、常盤池の周辺でも石炭が採れたみたいよ。

南蛮車の発明 (1840 年)

これは何じゃ？

「南蛮車」よ。

宇部村では、田に竖穴を掘って、地下の石炭を採掘していたから、向田兄弟が人力の巻き上げ機を発明したのよ。

なんば おお ほんど
♪ 南蛮押し押し 端取りやかぐれ
ナーヨ

♪ はな はと ば
立端は立端場の
ヤーレ もよう ♪
模様じゃない

南蛮車を押すのは、とても単調だったから、みんなの力をひとつにするために「南蛮唄」を唄ったんだって。

たの うれ さいぎょう
楽しく唄いながら作業をしたんじゃな。

なんば お お
♪ 南蛮押し押し しゃーこ
あがる 竖坑掘りよ

この唄が、宇部の民謡「南蛮音頭」のはじまりよ。

いま うべ しま した
今も宇部まつりなどで親しまれていて、
わか ひと なんば おんど も あ
若い人たちは「ニュー南蛮音頭」で盛り上げてくれるわ。

石炭産業の発展

イギリスで学んだ法律の知識を使って、
宇部の人々が自由に石炭を掘れるようにしたのが
福原芳山よ。



石炭の層は、海底にも広がっていることがわかったのね。

そうなんじゃ。
海底にある石炭を採掘して
掘った後に出る土は、海の埋め立てに使って、
土地を広げていったんじゃよ。



渡辺祐策 (1864 ~ 1934 年)

炭鉱の事業が拡大していくと、水道や電気、鉄道などが
必要になってきたから、わしはいろんなものを作ったんじゃ。

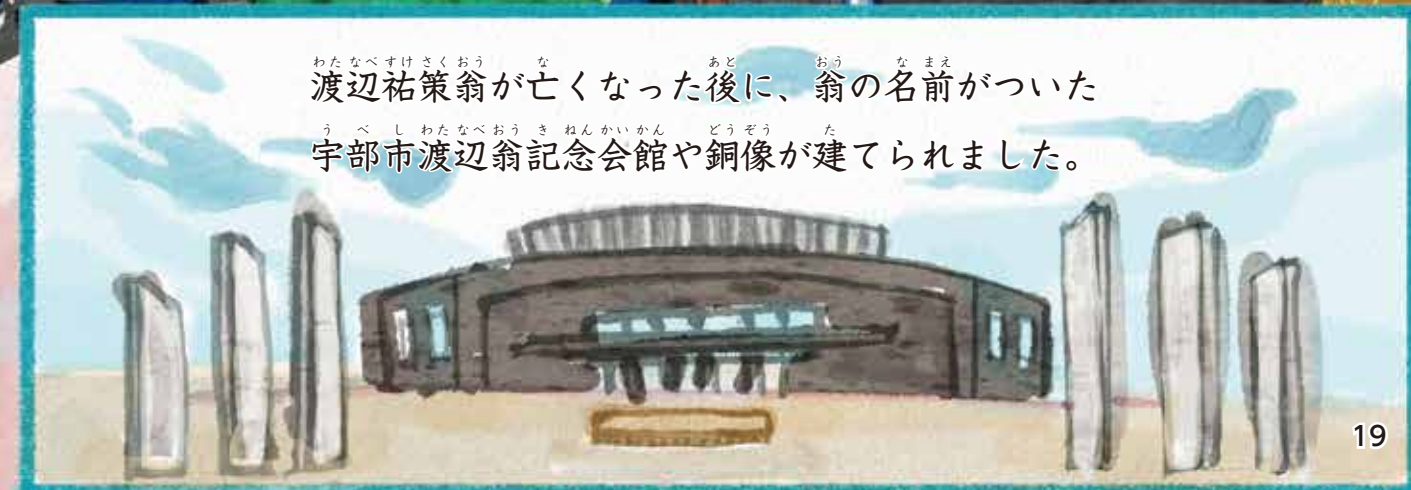


おじいさんは、宇部に住むみんなの生活や産業の基盤を作ったんだね。
すご〜い！



そして、「この大切な石炭資源をわしらの代で掘りつくしてしまう前に、
永く続く工業を興すべきだ」と強く思った。だから、石炭を利用して、
セメント製造事業などにも発展させていったんじゃ。

渡辺祐策翁が亡くなった後に、翁の名前がついた
宇部市渡辺翁記念会館や銅像が建てられました。



市制施行（村から市へ）

宇部の石炭業が飛躍的に発展して、
炭鉱で働く人がたくさんやってきた。
あまりにも急激に人口が増えてしまったから、
大正10年（1921）11月1日に、
村からいきなり市になったというわけじゃ。

すごい
にぎわいね♪

わしはな、市制施行にあたって
「共存同栄」「協同一致」という理念を掲げたんじゃ。
「皆が助け合って、誰もが同じく栄えていこう」
という意味じゃな。

共存同栄

いっしょあわせて
がんばろう！

宴會場

市制祝賀

新川講堂(旧新川小学校内)



このマークは、
市制施行の翌年に制定
された宇部市の市章で
宇部の「ウへ」を上下に
重ねたデザインです。

と き わ こ う え ん
常盤公園

たいしょうじ だい と き わ い け
大正時代の常盤池のまわりは、さくら う
料亭もでき、常盤桜山といわれた
とても景色のいいところだったんじゃ。

たいしょう ね ん と き わ こ う え ん は じ
大正14年(1925)に常盤公園として始まり、
その後、遊園地ができ、
みや おお じ どうぶつ え ん どうぶつ
宮大路動物園から動物もやってきた。

たんこう へいざん
炭鉱はすべて閉山してしまったけれど、
かつやく たてこう てんぼうだい
活躍していた豎坑やぐらを展望台にした、
こくないはつ せきたん きねんかん
国内初の石炭記念館もつくられたわ。

ヤッホー!

だれか
と
止めてくれー!

おさるさん!

ときめれが
ボクたちの
あそび場
だよ

しみん
市民だけでなく、
おおく ひとびと あい
多くの人々から愛される都市公園になっていったのね。

戦後のまち

ところが、昭和20年（1945）7月の宇部大空襲で、
まちの中心は焼け野原になってしまったの。

みんなで頑張ってまちを復興させたいけれど
産業の発展とともに使う石炭の量も増えていき、
工場の煙突から大量の灰が出て、
ついには「世界一灰の降るまち」と
いわれるようになってしまったわ。



だから、学識者と自治体、企業、住民が
話し合いをしながら、公害の防止策をはじめたの。
この手法は「宇部方式」と呼ばれて、
国際的に高く評価されたのよ。



みんなのまちづくりへの取り組みは、
「緑化運動」「花いっぱい運動」などの
市民運動につながっていったの。

あら 新たな「ときわ公園」へ

しょう わ ねん 昭和 32 年 (1957)、オランダから
20 羽のコブハクチョウがやってきて、
し ない 市内をパレードした後、
お お し みん み まも 多くの市民に見守られながら
とき わ こ はな 常盤湖に放されたのよ。



しょう わ ねん 昭和 60 年 (1985) には、日本初の人工ふ化による
モモイロペリカン「カッタ君」が誕生。
ち か よう ち えん と 近くの幼稚園に飛んで行って
えん じ いっしょ あそ すがた わ だい 園児と一緒に遊ぶ姿が話題になり、
えい が アニメ映画にもなったのよ。



でも、へい せい ねん 平成 23 年 (2011) に、「高病原性鳥インフルエンザ」が発生。
やく 300 羽もの白鳥たちは公園から姿を消してしまったの。
そんな中、新たに、せいそくかんきょうてん じ と い 生息環境展示を取り入れた「ときわ動物園」や
「世界を旅する植物館」などができて、
かんこう ち 観光地「ときわ公園」としてリニューアルしたの。



野外彫刻のまち

まちにたくさんの野外彫刻があるけど、どうしてかしら？

教えてあげよう！

私は“彫刻のまち”のシンボル「蟻の城」。

昭和 33 年 (1958)、駅前噴水池に

1つの彫刻が設置されたことをきっかけに、市民による「宇部を彫刻で飾る運動」がはじまったんだ。

そして、昭和 36 年 (1961) に、常盤公園で日本初の大規模な野外彫刻展が開催されるんだ。その後も 2 年に一度の開催を続けて、ついに、令和 6 年 (2024) 3 月 26 日に、UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展) は、「最も長く続いている野外彫刻展」としてギネス世界記録® に認定されたんだよ。



宇宙と本庶佑先生

平成11年(1999)、台風18号による高潮で、
山口宇部空港が冠水するなど、宇部市では大きな被害が出たんだ。

自然災害は恐ろしいわね。

森林の観測
林業支援

災害被害を
すぐに解析

農作物の生育から
収穫予測

宇宙に
勉強するよ

あ、大変！
災害だ！

そんな＜不思議＞をとことん追いもとめたのが、
宇部で育った本庶佑先生。

がん免疫療法の仕組み



今はJAXAの

「西日本衛星防災利用研究センター」ができて、
人工衛星から地球を観測した画像データを解析して、
役立てているよ。

わたたちがいる世界には、
まだまだ解明できない＜不思議＞が満ちあふれておるな。

すばらしい
のう

新しいがん治療を発見して、
ノーベル生理学・医学賞を受賞されたんじゃ。

「不思議だ、知りたいと思う心を大切にして」と
子どもたちにエールを送ってくださったわね。

新しい宇部市の誕生

宇部市は、戦前に藤山村、厚南村、西岐波村、戦後に東岐波村、小野村、厚東村、二俣瀬村と合併し、さらに平成16年(2004)に楠町と合併して、今の大きさまで広がりました。



市制施行 100 周年

宇部市は令和3年（2021）11月1日に、
市制施行100周年を迎えて、みんなで祝いしたね！

そうじゃな。ここまで時間の旅をしてきて、
みなは、宇部をどんなまちだと思っているかな？

宇部百花

JR山陽新幹線

エスディーエス
SDGs
未来都市

持続可能な
社会をつくるには
どうしたらいいかな？

がんばって
くれー！

おじいさんのころさし
わたしたち世代が
受けつづけ！

常盤通り
交流拠点施設
（ときめスクエア）

恩田運動公園
生まれかわるよ

ときめ公園

恩田スポーツパーク

絵本
おもちやでも
あそべる

山口宇部ふれあい公園
インクルーシブ
大型遊具広場

国道190号

JR宇部線

山口宇部空港

宇部市役所

はい！ 私は“緑と花と彫刻のまち”
空襲や公害から復活するために、
自然の緑と美しい花と彫刻がこのまちには必要だったんだ。
その思いはずっと未来につながっていくよ。

はい！ 私は、“暮らしやすいまち”
瀬戸内の海や緑豊かな自然を
身近に感じることができて、海の幸も山の幸も美味しい！
このままの良さを失わないでほしいな。

市街地の近くに空港もあり、
交通の便利がいいところも大きな魅力じゃな。
なにより……。

おじいさん、そろそろ時間よ。

おお、満月の光の力がなくなってきたようじゃ。

なにより、草花^{くさばな}を一粒^{ひとつぶ}の種^{たね}から育てる^{そだ}ように、
みなが同じ^{おな}思い^{おも}で育^{はぐ}んできた^う宇部^べのまちじゃ。
「共存^{きょうぞん}同栄^{どうえい}」と「協同^{きょうどう}一致^{いっち}」の精神^{こころ}を忘れ^{わす}ずに、
未来^{みらい}へはばたく^う宇部^べを、
わしたちはいつまでも見守^{みまも}っておるぞ。
宇部^{うべ}のことをよろしくたのんだぞ！

じゃあね！！

これからみんなが作^{つく}っていく
新しい「宇部^{うべ}ものがたり」の中^{なか}で
またお会^あいしましょう！



宇部市制施行100周年記念

おんべの 宇部 ものがたり

令和7年（2025）3月31日発行（非売品）

絵 水野ぷりん

制 作 宇部市制施行100周年記念絵本制作委員会
ポブラ社

発 行 宇部市 総合政策部 市史編さん室
〒755-8601
山口県宇部市常盤町一丁目7番1号
電話 0836-67-1277（宇部市学びの森くすのき内）

©MIZUNO PULIN/UBE CITY
※乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

おしまい

とびら・2～3ページ

満月の光が降り注ぐ夜、月の魔法で、「渡辺祐策翁像」と彫刻「冬の子供」に命が吹き込まれ、二人が出会う場面です。これから二人は宇部市の過去の時代を巡りながら、宇部ものがたりを紡いでいきます。

渡辺祐策翁像

昭和11年(1936)建立、昭和27年(1952)再建
東洋のロダンと呼ばれた著名な彫刻家
朝倉文夫の作品で、宇部市発展の基礎
を築いた渡辺祐策翁の没後、小中学生
をはじめ市民の寄付によって制作され
ました。渡辺翁に寄せた市民の敬慕の
念が偲ばれます。台石の上から、自身
が創業した工場群を見守っているよう
です。(渡辺翁記念公園内)



渡辺祐策翁像



冬の子供

冬の子供

昭和40年(1965)制作
絵本『大きなかぶ』(A・トルストイ再
話)の作画としても知られている彫刻
家佐藤忠良による、第1回現代日本彫
刻展出品作品です。台座の裏側には、
市民有志がこの作品を市に寄贈した経
緯が書かれています。(宇部市立図書館
前庭)



渡辺祐策翁像

4～5ページ

縄文時代～古墳時代の人々の暮らしです。食料がよくとれる海辺や平地に竪穴式住居を作り、生活していました。弥生時代には稲作も
始まりました。右上は古墳時代、周辺を治めていた人の埋葬の様子で、有力者しか持つことが出来ない青銅鏡も一緒に埋葬されました。

縄文時代

月崎遺跡(約8,000～3,000年前
／東岐波)
海辺に作られた集落で、狩猟用の
石の矢じりや石斧、漁網に使う石
のおもりなどが出土しました。



矢じり

弥生時代

北迫遺跡(約2,000年前／川上)
山頂付近に作られた、貝塚を伴った集落跡です。
稲穂を刈り取る石包丁も
出土しました。



石包丁

古墳時代

松崎古墳(約1,600年前／藤山)
長さ3メートルの大型の箱式石棺を持つ円
墳です。貴重な三角縁神獣鏡や琥珀製勾玉、
鉄剣などが出土しました。出土品や石棺は
山口県指定文化財です。



三角縁神獣鏡



箱式石棺

6～7ページ

「龍心庭」(宗隣寺庭園、小串)は、1300年代の南北朝時代に造
られたといわれる、山口県で一番古い庭園で、国の名勝です。
厚東氏は、厚東棚井を本拠地に霜降山に霜降城を築くなど、長門
国(山口県西部)を治めていた武士で、市内に多くの寺社を建立
しています。

干潟様

小石を敷いて浅瀬に見立て、池の水位の上下により石が見え隠れ
することで潮の満ち引きを表現しています。平安時代からの貴重
な作庭様式で、現存するものでは宗隣寺と岩手県毛越寺の2か所
のみといわれ、庭園史上貴重な遺構です。



8～9ページ

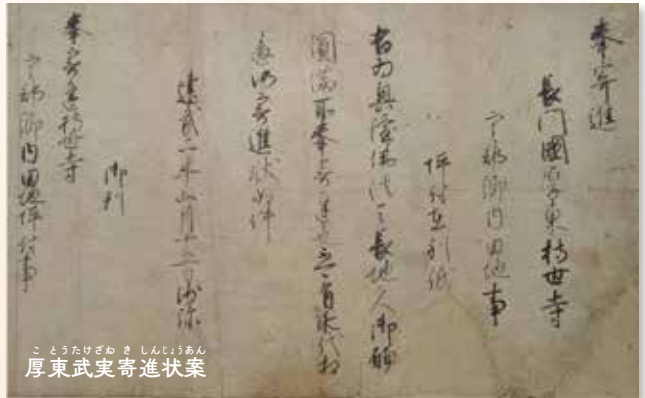
江戸時代初めの宇部村周辺(現在の市街地付近)の地形は、今と
は全く異なり、慶長10年(1605)に描かれた最古の山口県全図
「慶長国絵図」で確認することができます。寛永2年(1625)に
福原氏が宇部領主となると、耕作地を拡大するため、この入り江
を開作して田畑を増やしていきました。



大正時代の緑が浜

「宇部」の地名が見える古文書

厚東氏の中で最も勢力があった厚東武実が、建武2年(1335)
に厚東の持世寺に領内の田地を寄付する時の文書で、漢字
の「宇部」が出てくる最古の資料です。『厚東武実寄進状案』
(市指定文化財)



厚東氏

主に鎌倉時代から南北朝時代にかけて、長門国で勢力を持った
武士です。第14代厚東武実が建武元年(1334)に長門国の守
護に任命され、長門国を治めていましたが、正平13年(1358)、
第17代厚東義武の時に、隣国周防国の大内弘世に滅ぼされ、
約400年続いた厚東氏の時代は終わりました。



元禄 11 年（1698）、福原氏は、現在の石炭記念館の付近に堤防を築いて、草江、常盤地区の田畑のかんがい用ため池として、常盤池を築造しました。

また、当時の真締川は、現在の山口大学医学部付近で、西に直角に曲がっていて氾濫が多かったため、海に向かって真っすぐ流れるように砂丘を掘り割り、堤防を造って、川筋を変える工事を行いました。約 16,000 人が関わるほどの大工事でした。

寛政 10 年（1798）に新しい川が完成すると、真締川の守護神として、中津瀬神社が建立（当初は現在のヒストリア宇部付近、その後新天町に移転）され、春に境内で行われていた農具市が、現在の「新川市まつり」の起源となっています。



ときわためい の ちかくず やまぐちけんもんじょかんしよぞう 常盤溜井之略図／山口県文書館所蔵

江戸時代の山陽道宿場町「船木宿」の様子。船木には周辺を担当する役所が設置され、街道の両側に宿屋や商店などが立ち並び、多くの人が街道を行き交い、政治・経済の中心地として栄えました。

かんば 勘場

船木宰判の役所（宰判とは長州藩の行政区の単位で、船木宰判は宇部市の一部と山陽小野田市の一部を含んでいました。）

ちゃや お茶屋

藩主や大名が休憩、宿泊する所

たびとにつけば 旅人荷付場

次の宿まで馬で荷物を運ぶなど旅人の世話をする所

せきたんはっしやう ち 石炭発祥の地

船木周辺では、石炭層が地表近くにあったため、早くから石炭を採掘していました。正保 2 年（1645）に書かれた各地の名産品をまとめた本『毛吹草』に、「船木では、石炭（イシズミ）と櫛があり、石炭を薪として使っている」と書かれています。家庭での煮炊きに、薪の代わりに石炭を燃やして使っていたことが分かります。

さんさんこうたい 参勤交代

各地の大名（殿様）を定期的に江戸（東京）に住まわせる制度です。家来を引き連れて街道を歩いて行くので、長い行列

ができました。

ふなきくし 船木櫛

髪を毛を梳く櫛を作る熟練の技を持った老舗の櫛屋が数軒あり、その評判は街道を通して全国に広まり、全国有数の生産量でした。船木宿に立ち寄った豊臣秀吉に献上し、「日本一の名物」と褒められたと伝えられています。



ふなきくし 船木櫛

宇部村では、田畑の農閑期に堅穴を掘って地下にある石炭を採っていましたが、地下水が湧き出て採掘の妨げになっていました。これを見た亀浦の向田九十郎と七右衛門兄弟は、天保 11 年（1840）、糸車をヒントに巻き上げ機「南蛮車」を発明し、地下水のくみ上げに成功し、石炭が掘りやすくなりました。その後も改良を重ね、石炭の巻き上げや地下 30 メートルまで掘り下げることもできるようになりました。

なんばおんど 南蛮音頭

南蛮車を押すときに唄っていた「南蛮唄」をもとに、市民みんなが唄って踊れるよう、歌詞を公募し、童謡詩人で有名な野口雨情の協力のもと、昭和 4 年（1929）に宇部の民謡として誕生しました。その後、若者向きの早いリズムで踊る「ニュー南蛮音頭」も作られました。

明治時代の初め、宇部辺りの石炭を掘る権利を地元以外の人独占している状態で、自分の土地の地下にある石炭を掘るのに高いお金を払っていました。イギリス留学から帰国した福原芳山は、法律の知識を活かして、採掘権を取り戻し、自由に石炭を掘れるようにしました。石炭の需要が増えていくと、宇部沖の海底に広がる石炭層を掘るため、海底炭鉱が発展していきました。

ふくばらよしやま 福原芳山

福原越後亡き後の福原家の跡継ぎ。慶応 3 年（1867）、イギリスへ渡り、日本人初の法廷弁護士（パリスター）の資格を取得しました。帰国後、明治 9 年（1876）に石炭会社（後に宇部炭坑会社に改称）を設立して、地元以外の人が持っていた石炭採掘権を取り戻し、宇部村民に開放し、石炭産業発展の基礎づくりに貢献しました。



福原芳山

うべきやうどうぎかい 宇部共同義会

明治 19 年（1886）設立。宇部村民のみで組織され、村内の石炭鉱区の集中管理を行うとともに、石炭で得た利益を、村立中学校建設や県立宇部工業高校の誘致をはじめ、警察署、郵便局の設置、常盤公園の整備、図書館建設など、社会福祉や公共事業に投資し、地域の発展を支えました。

ここにも注目！



ふくばらえちご 福原越後

長州藩の永代家老で、江戸時代最後の宇部領主。文武に優れた武士で、上宇部の福原邸の近くに学校「維新館」を設立し、藩士や領民の教育普及に努めました。

さんもんへん 禁門の変（蛤御門の変）

幕末の激動の時代、長州藩は京都での勢力回復のため、元治元年（1864）、藩の永代家老福原越後や國司信濃（万倉領主）、益田右衛門介（須佐領主）が兵を指揮して、京都御所の蛤御門付近で幕府軍と戦いましたが、敗退しました。幕府への謝罪のため、越後など三家老が切腹することで、長州藩の危機を救いました。

もうりときこ 毛利勅子

明治 6 年（1873）、「船木女児小学」を設立し、初の女性校長として船木地区での女性教育普及に努めました。その後「德基学舎」と改名、山口県立厚狭高等学校に続いています。

かがわまさこ 香川昌子

明治 36 年（1903）、藤山村に「香川裁縫塾」を開き、女性教育に尽力しました。

おき やまたんこう しんこう 沖ノ山炭鉱（新坑）

明治 45 年（1912）、新川河口から 1000 メートル沖に 180 メートル四方の人工島を築造し、海底炭鉱の採掘に着手しました。石炭を採掘する時に出てくるボタ土は海の埋め立てに使い、やがて人工島も陸地とつながり、工場地帯を形成していきます。

たてこう 堅坑

地表から地下の坑内へ垂直に設けた坑道施設です。地上には堅坑櫓が設置され、石炭、資材や人員の上げ下ろしをしていました。沖ノ山炭鉱では深さ 200 メートル以上にもなりました。

渡辺祐策翁は、明治時代の終わりころ、沖ノ山炭鉱（現在のUBE株式会社の前身）を開発し成功すると、炭鉱などで安全な電気が使えるように電気会社を作り、衛生的な水が飲めるよう上水道を整備したほか、宇部港や道路の整備、鉄道も作りました。他にも新しい学校や病院を作って教育や医療を充実させました。

有限の鉱業から無限の工業へ

『爺らが代には炭を掘りつくして、おま
らアの時には何もないと孫にいわれちア
ならん、長う続く仕事も残しておいてや
らにゃ』は、渡辺祐策翁の言葉です。埋
蔵量に限りがある石炭はいつかは無くな
る日があるので、未来を生きる子どもた
ちのため、永く続く工業を生み出す必要
があるとの思いで、宇部セメント製造株
式会社（大正12年）や宇部窒素工業株
式会社（昭和8年）などを創業しました。

桃色レンガ

大正時代、工場用燃料の石炭の燃焼灰と
石灰を混ぜて天日干したリサイクル
製品で、炭鉱で繁栄した頃の名残です。
上水道施設「桃山配水計量室（通称：
六角堂）」にも使われています。



六角堂

宇部市役所



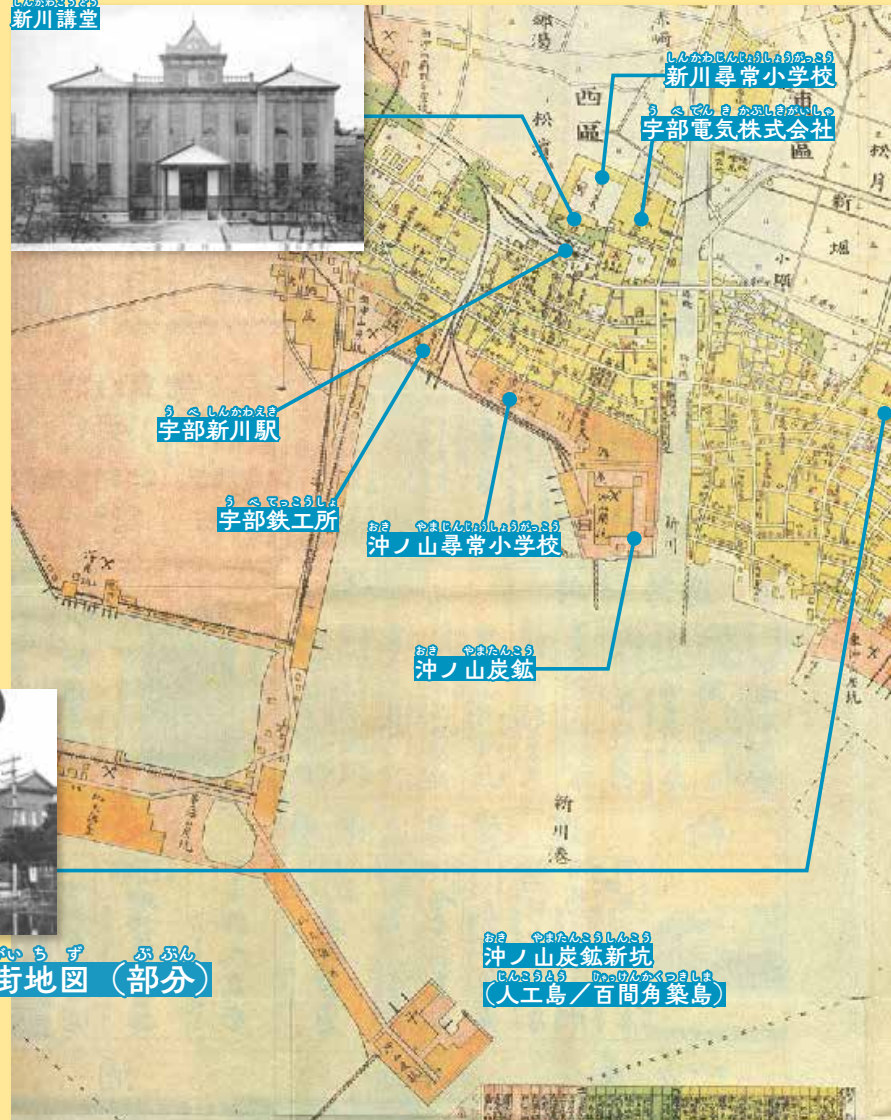
市制施行した年の市街地図（部分）

宇部市渡辺翁記念会館

渡辺翁の遺徳を顕彰するため、翁が作った
沖ノ山炭鉱株式会社をはじめ、7つの会社
の寄付により、昭和12年（1937）に建設
されました。会館正面の台座と6本の記念
柱は7社を表しています。著名な建築家、
村野藤吾設計の傑作として、国内外に広く
知られた建造物で、国の重要文化財です。



新川講堂



沖ノ山炭鉱新坑 （人工島／百間角薬島）

宇部村の人口は、明治22年（1889）は約6,500人でしたが、石炭業の発展につれ、炭鉱で働くために移ってきた人が増え続け、大正10年（1921）には40,000人を超えました。人口が急激に増加したことで、上水道の整備が対応できず、また下水道も不完全で伝染病が多発しました。大正7年（1918）には米騒動の争いが起こるなど、村全体にさまざまな社会問題が発生していました。このため、効率的に都市機能を整備できるよう、市制が求められ、大正10年（1921）11月1日、宇部市が誕生しました。初代市長は国吉亮之輔、初代議長は渡辺祐策でした。イラスト内の賑やかな街並みは、中津瀬神社の周辺です。

共存同栄・協同一致

市制施行にあたって制定された「宇部市憲五則」の中に出てく
る言葉。市民皆が一致団結して企業と地域が共存し、同じよう
に栄えていくという意味が込められています。

新川講堂

新川小学校の講堂として建築され、市制施行の前日に完成しま
した。11月2日、3日には、市制記念祝賀会が開催されました。
市全体の公会堂も兼ねていて、宇部市の文化活動の拠点として
の役割も果たしました。

大正時代、常盤湖畔は桜の名所で、「常盤桜山」と呼ばれており、料亭ができるな
ど多くの人が集まる場所でした。ここを宇部市の公園にしようと、渡辺祐策らが
周辺の土地を買い上げて市に寄付したことで、宇部市の常盤公園となりました。

常盤公園

常盤湖は、江戸時代の元禄11年（1698）、宇部領主の福原氏が周辺の田畑のかんが
い用として作った「人工池」です。大正14（1925）、宇部市常盤公園が開設して以
来、昭和33年（1958）に常盤遊園地の開園、昭和39年（1964）には宮大路動物
園から動物が移され、新たに動物園がスタートしました。その後も市民の憩いの場
所として公園整備が進められ、日本の都市公園100選、さくら名所100選などのほ
かに、平成20年（2008）に国の登録記念物、平成28年（2016）には、常盤湖が
国際かんがい排水委員会により「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

宮大路動物園

昭和30年（1955）、山口県内初の動物園として開園しました（松山町一丁目／旧宇
部市勤労青少年会館付近）。市民からの募金をもとに設立された動物園で、多種多
様な動物を飼育展示して、多くの人に愛されました。

石炭記念館

日本初の石炭をテーマにした博物館施設として、昭和44年（1969）に開館しま
した。上部の展望檣は、かつて市内にあった東見初炭鉱で閉山まで活躍した豎坑
檣を移設し、展望台として再利用したもので、宇部に残された数少ない炭鉱遺産
です。

常盤桜山



常盤湖



常盤遊園地



宮大路動物園



昭和 20 年（1945）7 月の宇部大空襲で、街の中心部は焼け野原になりましたが、宇部の人々は戦災からいち早く復興し、再び産業を回復、発展させていきました。しかし、工場が燃料として大量の石炭を使うため、煙突からは煤が出続け、「世界一灰の降るまち」といわれるほどでした。この公害を市民みんなの協力力で克服した「宇部方式」が国際的に高く評価されました。

イラスト内の交差点は常盤通りと西のロータリーです。

宇部大空襲

昭和 20 年（1945）4 月から 8 月まで計 8 回に及び、特に 7 月 2 日の爆弾・焼夷弾による爆撃で、工業地帯や市街地が焼失し、約 2 万 4 千人以上が被災しました。

宇部方式

公害克服のために、学識者と自治体、企業、住民が一体となって科学的調査データに基づく話し合いによる公害防止策を始めました。この手法が「宇部方式」と呼ばれ、平成 9 年（1997）に国連環境計画から「グローバル 500 賞」を受賞しました。

白鳥湖

白鳥の導入は、昭和 31 年（1956）の「常盤公園開発整備に関する基本計画」に始まり、「常盤湖を日本一に」という思いで、当時、黒（石炭）

で名を知られていた宇部市を白（ハクチョウ）で売り出すことになり、昭和 32 年（1957）、オランダやドイツからコブハクチョウを購入しました。その後、順調に増え、300 羽を超えるようになりました。

ときわ動物園

平成 28 年（2016）にリニューアルオープン。全国初の全国に生息環境展示を取り入れた動物園です。動物が生息している環境を再現することで、動物本来の生き生きとした姿を観察することができます。

高病原性鳥インフルエンザ

ニワトリに対する病原性が強いウイルスで、ときわ公園内の白鳥島で死んでいるコクチョウから検出されました。さらなる感染拡大を防止するため、やむなく、同じ白鳥湖で飼育していたハクチョウ類など 338 羽を殺処分しました。



花壇コンクール

市民が丸となったまちづくりの取り組みは、「花いっぱい運動」へ広がり、その後、昭和 35 年（1960）から毎年春秋に、職場や学校、地域単位で参加する「花壇コンクール」につながっています。コンクール 100 回を記念し、平成 26 年（2014）にときわ公園内に「花いっぱい運動記念ガーデン」が開園しました。

グローバル 500 賞

国連環境計画（UNEP）が、持続可能な開発の基盤である環境の保護及び改善に功績のあった個人又は団体を表彰する制度。「宇部方式」による環境対策への取り組みが国際的に評価されました。



宇部市が、花の種を購入するための募金の一部で彫刻作品「ゆあみする女」（ファルコネ作・複製品）を購入し、昭和 33 年（1958）宇部駅（現在の JR 宇部新川駅）前広場の噴水池に設置しました。子どもたちが写生するなど市民に好評だったことから「宇部を彫刻で飾る運動」へと発展し、やがて、芸術性の高い彫刻を集め、若手芸術家の育成にも寄与しようという気運が高まり、昭和 36 年（1961）に、日本初の大規模な野外彫刻展「第 1 回宇部市野外彫刻展」が開催されました。

蟻の城

昭和 37 年（1962）「宇部をテーマとした彫刻」で制作された、向井良吉による鉄の廃材を使った巨大な彫刻作品で、彫刻のまちのシンボルです。



ギネス世界記録® に認定

「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」は、世界各地のアーティストが参加し、2 年に一度開催される世界で「最も長く続いている野外彫刻展」です。市内に設置された野外彫刻は 200 点を超え、国内屈指のコレクションとして、市街地や公園などいたるところで形も素材も様々なアートに出会うことができます。

平成 11 年（1999）の台風 18 号では、高潮などによる市内の住宅の被害は約 10,000 棟にも及びました。近年、世界的に台風や地震などの自然災害が増えています。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の「西日本衛星防災利用研究センター」では、人工衛星で宇宙から地球を観測して、その画像データを解析しています。レーダー（SAR）センサーは、夜間や悪天候でも観測でき、災害を把握する研究が行われています。また、宇部市では、JAXA 宇宙教育センターの体験型プログラムをはじめ、宇宙を素材とした教育活動も行っています。

本庶 佑

小学校から高校時代までを宇部市で過ごしました。小学校の夏休み、先生が望遠鏡で見せてくれた土星に感動したことから天文学者になりたかった本庶佑さんは、「多くの人の命を救える」と医学部に進学しました。平成 30 年（2018）、がんの革新的治療法を切り開いた業績で、ノーベル生理学・医学賞を受賞され、翌年、宇部市民栄誉賞が贈られました。

明治 22 年 (1889) に宇部市をはじめ、周辺各村が誕生しました。市制施行後は、昭和時代に周辺の村と合併して、市域を拡大しました。さらに平成 16 年 (2004) に楠町と合併し、新「宇部市」が誕生しました。

市木・市花 これまで市木はクスノキ、市花はサルビアでしたが、新たに旧楠町のツツジが市花に加わりました。

旧楠町との合併記念

楠こもれびの郷 平成 21 年 (2009) オープン。天然温泉や農家レストラン、農産物直売所があります。

学びの森くすのき 平成 25 年 (2013) 開館。博物館と図書館、学習施設があります。

いずれも、都市部と山間部の情報や文化の交流拠点施設として、賑わっています。



学びの森くすのき

令和 3 年 (2021) 11 月 1 日に宇部市制施行 100 周年を迎え、みなさんで祝いしました。記念事業として、市役所本庁舎が建て替えられるとともに、将棋の竜王戦が開催され、藤井聡太さんが史上最年少で四冠を達成しました。藤井四冠 (当時) が宇部ラーメンを食べた感想で「ぺろりといいただきました」と話し、話題になりました。その他、市史編さん事業や市制施行 100 周年記念絵本作事業も開始することになりました。

市庁舎の変遷



<大正 11 年 (1922) ～>



<昭和 33 年 (1958) ～>



<平成 27 年 (2015) 撮影>



新庁舎<令和 4 年 (2022) ～>

宇部百た

市制施行 100 周年にあわせて、ときわミュージアム「世界を旅する植物館」で作出されたオリジナルバラです。



宇部市のあゆみ

約 8000 年前	縄文時代	東岐波の海岸で集落が営まれる【月崎遺跡】
約 2000 年前	弥生時代	北迫で弥生人の村が誕生する【北迫遺跡】
約 1600 年前	古墳時代	藤山に支配者の古墳が造られる【松崎古墳】
長保 元	999	厚東武通が厚東吉見に持世寺を建立する
治承 3	1179	厚東武光が霜降城を築く
建武 元	1334	厚東武実が長門国の守護となる
建武 2	1335	厚東武実が持世寺を再建する「厚東武実寄進状案」の中で、「宇部」の地名が初めて現れる
正平 13	1358	厚東義武の時、周防国の大内弘世により霜降城が落城する
南北朝時代		小串の松江山普濟寺に、干潟様の様式を持つ庭園 (現在の龍心庭) が造られる
寛永 2	1625	福原元俊が宇部 (宇部、川上、山中、小串村など) の領主となる 国司就正が万倉の領主となる
正保 2	1645	『毛吹草』に船木の名産品として石炭と櫛が紹介される
寛文 10	1670	福原広俊が宗隣寺を建立する (普濟寺跡地)
元禄 2	1689	船木宿に御茶屋が建設される 船木宰判の勤場が厚東吉見から船木宿へ移転する
元禄 8	1695	鵜ノ島開作が造られる
元禄 11	1698	常盤池が築堤される
寛政 10	1798	沖の山の砂丘を掘って、新川 (真締川) が完成する
天保 11	1840	向田兄弟が「南蛮車」を発明する
元治 元	1864	福原越後が学校「維新館」を設立する 宇部領主福原越後、万倉領主国可信濃ら 3 人の家老が「禁門の変」の責任を取り切腹する 渡辺祐策が小串村島で誕生する
慶応 3	1867	福原芳山がイギリスへ留学して、法学を研究する
明治 6	1873	船木女児小学が創立され、毛利勲子が校長になる 旧長州藩石炭局の福井忠次郎が石炭会社を設立し、沖宇部村・小串村・上宇部村などでの石炭鉱区権を独占する
明治 9	1876	福原芳山が、帰国後石炭会社を設立 (後に宇部炭坑会社に改称)。石炭鉱区権を取り戻す
明治 12	1879	山口県が厚狭郡役所を船木に設置する (大正 15 年まで)
明治 19	1886	宇部共同義会が設立される
明治 22	1889	沖宇部村・小串村・川上村・中宇部村・上宇部村が合併して、宇部村となる 藤山村・厚南村・西岐波村・東岐波村・厚東村・二俣瀬村・小野村・船木村・万倉村・吉部村が誕生する
明治 30	1897	渡辺祐策が沖ノ山炭鉱を創業する (沖ノ山炭鉱組合)

明治 36	1903	香川昌子が藤山村に香川裁縫塾を開く
明治 42	1909	渡辺祐策が宇部電気株式会社を設立する
明治 44	1911	宇部軽便鉄道株式会社が設立される (大正 10 年から宇部鉄道株式会社)
明治 45	1912	沖ノ山炭鉱が新川沖で人工島造成に着手する 中津瀬神社が新川河畔から現在地に移る
大正 3	1914	宇部軽便鉄道が宇部新川駅～宇部駅間で開通する 渡辺祐策が宇部新川鉄工所を設立する
大正 6	1917	渡辺祐策が宇部紡織所を設立する。翌年、宇部紡績株式会社に改称 (現在の市立図書館の場所)
大正 7	1918	宇部村で米騒動が勃発する
大正 9	1920	沖ノ山同仁病院が創設される 宇部村立宇部中学校 (現：山口県立宇部高等学校) が開校する (建設委員：渡辺祐策)
大正 10	1921	市制施行 (11 月 1 日)、宇部村から一挙に宇部市になる (人口 40,770 人)
大正 11	1922	初代市長に国吉亮之輔、初代市議会議長に渡辺祐策が就任する 市役所が上宇部から新川の new 庁舎へ移る 宇部市の市章が決定する
大正 12	1923	渡辺祐策が宇部セメント製造株式会社を設立する
大正 13	1924	沖ノ山炭鉱が沖ノ山上水道を整備する (桃山配水計量室ほか) 渡辺祐策らが常盤湖畔の土地建物を購入し、市に寄付する
大正 14	1925	市が常盤公園として管理・運営する 宇部鉄道株式会社の宇部駅 - 小郡駅間全線が開通する (現：JR 宇部線) 参宮道路が開通する (琴崎八幡宮まで)
大正 15	1926	渡辺祐策が新たに新沖ノ山炭鉱 (現：山陽小野田市) を創業する
昭和 2	1927	渡辺祐策が宇部電気鉄道株式会社を設立する
昭和 4	1929	宇部文芸協会が南蛮音頭の歌詞を募集し、「南蛮音頭」が完成する (補作野口雨情、作曲藤井清水)
昭和 6	1931	厚狭郡藤山村と合併する
昭和 8	1933	宇部港が完成する (防波堤工事) 渡辺祐策が宇部窒素工業株式会社を設立する
昭和 9	1934	渡辺祐策翁が逝去する 市制記念祝賀行事として炭都祭を開催する (「宇部まつり」の原型)
昭和 10	1935	父祐策翁の遺志を継いだ渡辺剛二の寄付を受け、市が桜山公園を買い取り、常盤公園が広がる
昭和 11	1936	渡辺祐策翁像が完成する
昭和 12	1937	渡辺翁記念会館が完成する
昭和 16	1941	厚狭郡厚南村と合併する 恩田運動公園が完成する

うべし
宇部市のあゆみ

昭和 17	1942	沖ノ山炭鉱（株）・宇部窒素工業（株）・宇部セメント製造（株）・（株）宇部鉄工所が合併して、宇部興産株式会社（現：UBE株式会社）が設立される（初代社長：俵田明） 周防灘台風が宇部市に上陸し、厚東川が決壊して約 84,000 人が罹災する
昭和 18	1943	吉敷郡西岐波村と合併する
昭和 20	1945	宇部大空襲で市街地や工業地帯が焼失する（7 月 2 日）
昭和 25	1950	厚東川ダムが完成する
昭和 26	1951	50 メートル道路が完成する（常盤通り）
昭和 29	1954	厚狭郡厚東村・小野村・二俣瀬村、吉敷郡東岐波村と合併する
昭和 30	1955	船木町・万倉村・吉部村が合併して厚狭郡楠町が誕生する 宮大路動物園が開園する 宇部を花で埋める会が発足し、「花いっぱい運動」が始まる
昭和 32	1957	オランダロッテルダム市シンブルグ動物園から白鳥 20 羽が到着し、常盤湖で白鳥放養式を開催する
昭和 33	1958	常盤公園に遊園地が開園する 「ゆあみする女」が宇部駅（現：JR 宇部新川駅）前に設置される 第 1 回花壇コンクールが開催される
昭和 34	1959	俵田翁記念体育館が完成する
昭和 36	1961	常盤公園で第 1 回宇部市野外彫刻展（UBE ビエンナーレの前身）が開催される
昭和 37	1962	常盤公園に「蟻の城」が設置される
昭和 38	1963	第 1 回全国彫刻コンクール応募展が開催される
昭和 39	1964	常盤公園内に動物園が開園する（宮大路動物園から動物を移設）
昭和 40	1965	第 1 回現代日本彫刻展が開催される
昭和 41	1966	宇部空港（現：山口宇部空港）が開港する
昭和 42	1967	宇部興産（株）宇部鉱業所が閉山し、宇部市での石炭の採掘が終わる
昭和 44	1969	全国初の石炭記念館が開館する
昭和 47	1972	市花をサルビア、市木をクスノキに制定する
昭和 50	1975	宇部市環境保全センターが完成する 山口宇部有料道路が開通する
昭和 51	1976	赤間硯が国の伝統的工芸品に指定される
昭和 54	1979	宇部市文化会館が完成する
昭和 55	1980	ニューカッスル市と姉妹都市締結する
昭和 58	1983	宗隣寺庭園が国の名勝に指定される
昭和 60	1985	国内初の人工ふ化によりモモイロペリカンのカタ君が誕生する

平成 3	1991	ときわ湖水ホール、宇部市立図書館（現：図書館）が開館する
平成 4	1992	中国威海市と友好都市締結する
平成 7	1995	宇部市リサイクルプラザが完成する 常盤公園に熱帯植物館が開館する アニメ映画「カット君物語」が公開される
平成 9	1997	国連環境計画（UNEP）から「グローバル 500 賞」を受賞する
平成 10	1998	男女共同参画宣言都市となる
平成 11	1999	台風 18 号による高潮などの影響で、山口宇部空港をはじめ多くの被害が発生する
平成 13	2001	山口きらら博に単独パビリオン「未来フロンティア宇部市館」を出展する
平成 16	2004	厚狭郡楠町と合併（11 月 1 日）し、市花にツツジが追加される 台風 18 号の猛烈な暴風雨で、7 万戸以上に停電被害が出る
平成 17	2005	渡辺翁記念会館が国の重要文化財に指定される
平成 19	2007	緑と花と彫刻の博物館（ときわミュージアム）が開館する
平成 20	2008	常盤公園が国の登録記念物に登録される
平成 21	2009	楠こもれびの郷が開業する 真締川ダムが完成する
平成 22	2010	ヒストリア宇部（旧宇部銀行館）が開館する
平成 23	2011	常盤湖で「高病原性鳥インフルエンザ」が発生し、300 羽以上の白鳥などが殺処分される
平成 25	2013	宇部市学びの森くすのきが開館する 宇部湾岸道路（藤曲 IC－東須恵 IC 間）が開通する
平成 26	2014	ときわ公園内に「花いっぱい運動記念ガーデン」が開園する
平成 28	2016	ときわ動物園がグランドオープンする 常盤湖が「世界かんがい施設遺産」に登録される
平成 29	2017	ときわミュージアム「世界を旅する植物館」がリニューアルオープンする JAXA の「西日本衛星防災利用研究センター」が開所される
平成 30	2018	S D G s 未来都市に選定される
平成 31	2019	ノーベル生理学・医学賞受賞の本庶佑教授に宇部市初の市民栄誉賞が贈呈される スペイン カステジョ・デ・ラ・ブラーナ市と姉妹都市提携する
令和 3	2021	宇部市制施行 100 周年を迎える（希望あふれる未来へ 宇部市 100 歳）
令和 4	2022	市役所新庁舎第 1 期棟の供用を開始する
令和 5	2023	山口宇部空港「山口宇部ふれあい公園」にインクルーシブ大型遊具広場がオープンする
令和 6	2024	UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）が、「最も長く続いている野外彫刻展」として、ギネス世界記録® に認定される（3 月 26 日）

